

# I 実践事例 1

## 1 「多学問的な見方・考え方」から捉える地理学習

地理的事象に対し、自然地理学的なシステム、政治的なシステム、経済的なシステムなど多学問的な視点から理由を累積して地域を捉える地理学習を提案する。

## 2 単元について

### (1) 単元名・学習課題

第1学年地理的分野

南アメリカ州～ベネズエラを事例に～

「なぜ、ベネズエラは原油埋蔵量が世界1位なのに生産量は小さいのだろうか。」

### (2) 単元設定の趣旨

本単元は学習指導要領地理的分野の大項目B「世界の様々な地域」、中項目「世界の諸地域」の「南アメリカ」に該当する。この中項目を扱うねらいは学習指導要領解説では「空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、世界の各地域で見られる地球的課題の要因や影響をその地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成すること」とある。また、身に付けたい「知識」に関わる事項としては「世界各地で顕在化している地球的課題は、それらが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なること」「各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観」すること、「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項としては「地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること」とある。

南アメリカ州はスペインやポルトガルを旧宗主国とし、民族や文化において、現地独自のものと移民によるものが混ざり合っているという特徴をもつ。陽気で楽観的な国民性を持ち、サッカーなどのスポーツに熱狂的な地域でもある。位置的にはアメリカ合衆国と近く、強く影響を受ける一方で、キューバなどの社会主義国も存在する。ブラジルやアルゼンチンはハイパーインフレを経験し、経済的危機に陥ったが、近年経済成長も見られる。

また、地球的な課題として、熱帯雨林の保全と農業開発との狭間で政治・経済・社会が揺れ動いているという実態がある。この中で、近年、原油の存在が確認され、世界一の埋蔵量を誇るベネズエラに注目する。

### (3) 生徒の実態

地理的分野においては、「ケッペンは何に注目して気候区分をしたのだろうか」について、仮説を立てて資料をもとに検証したり、「アフリカのなぞの写真はどこかの地点のものだろうか」について、既習事項を用いながら自然環境の理解を進めたりしてきた。歴史的な分野においては「鑑真は奈良時代の日本をいい国だと思っただろうか」について、討論型の話し合い活動を行ってきた。今回扱うベネズエラについては、国名は聞いたことがあっても、どのような国なのかについての知識はないという実態がある。ベネズエラは南米が抱えてきた諸問題が顕在化している国であり、南米の地域的特色や地域の課題を捉えるには適した題材だと言える。そこで、アジア州における成功事例として、豊富な資源を外国企業の誘致（資金・技術導入）によって経済成長を遂げたこと、反対に、アフリカ州におけるモノカルチャー経済、オランダ病などの事例をもとに、ベネズエラに関する学習課題について仮説を立て、資料をもとに追究活動を行うという単元構成をとった。

### (4) 指導の構え

#### ① 「地理的な見方・考え方」に関するもの

「位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域など」社会的な事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付ける。

#### ② 「地域を単位にした総合的な社会研究」の視点から

石油を多く埋蔵しているという自然地理学的な視点、経済システムの視点、政治システムの視点等から、「なぜ」の問いを累積的に積み上げていき、「多学問的(総合的)な見方・考え方」から事象を捉えていくことで、より間違いの少ない、いわゆる「科学的な社会認識形成」を促

進しようとする方法をとる。

例：自然地理的には「石油を多く埋蔵・産出するのならば、経済が潤うはずである」。しかし、政治・経済・社会はそうになっていないのがベネズエラであり、このように反証事例を出していくことで、学問的な限界を乗り越える視点を身に付けていく。

### ③「中範囲理論」の視点から

歴史的分野，地理的分野で扱う内容は，「一般化できない部分」も多く存在する。時間的・空間的に限定された特定の事象に関する説明は「固有の説明ができれば是とする」理論である。さらに言えば，ベネズエラの事例は個別的・具体的なものではあるが，南米の諸課題や特色を捉えることはできると考える。

#### (5) 単元の目標

南アメリカ州で見られる地球的課題の要因や影響を，州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目し，ベネズエラやブラジルの事例から南アメリカ州の地域的特色を捉え，関連付けて多面的・多角的に考察し，表現することができる。

#### (6) 単元の全体計画（学習過程）

第1次：「なぜ，ベネズエラは原油埋蔵量が世界1位なのに生産量は小さいのだろうか」……4時間

○1時間目…埋蔵量と生産量でベネズエラだけが一致していないことから，課題を把握する。アジア州，アフリカ州の既習事項をもとに仮説を立てる。

#### 【公開授業を実施した学級で生徒から出た仮説】

- ・オランダ病にかかっている，もしくはかかるのを防ぐために生産を抑えている。
- ・モノカルチャー経済で生産力が落ちている，もしくはならないようにしている。
- ・生産する技術や資金，人手が足りない。
- ・高山地帯に油田があるので，採掘場が建設しにくい。
- ・熱帯林・放牧地，二酸化炭素排出など自然や生活環境を保護するために開発していない。
- ・紛争や災害などが起きていて，開発ができない。
- ・外国との関係がよくない。外国企業が技術や資金を援

助してくれない。

○2・3時間目…個人の調べ作業，ジグソーの同じ担当グループでのまとめ。

○4時間目（本時）…ジグソーと全体でのまとめ。

第2次：「あなたがブラジルの国会議員なら，森林法改正案についてどうしますか」〔略〕……2時間

第3次：南アメリカ大陸の地域的特色の大観，評価問題の取り組み〔略〕……1時間

### 3 本時の学習（4/7時間）

#### (1) 本時の目標

民主主義の弱体化に伴う権力集中(政権の長期化)が経済・社会を衰退させる（民主主義が弱体化すれば，いずれ経済・社会は衰退し，回復がしにくい）ことを理解させる。

#### (2) 本時の展開〔略案〕

学 習 活 動	
1	<p>学習課題を確認する。</p> <p>なぜ，ベネズエラは原油埋蔵量が世界1位なのに生産量は小さいのだろうか。</p> <p>・根拠をもとに説明する。</p>
2	<p>ジグソー形式(4人グループ)で説明する。</p> <p>・前時までに調べておいた内容を用いて，ジグソー形式の班活動で自分の担当分野の説明をする。</p> <p>【担当A・B：歴史，内政】2人</p> <p>・チャベス，マドゥロ両大統領による民主主義の無視，三権の掌握，大統領と依存関係の軍による政治介入</p> <p>・国民生活の監視，不正選挙の横行，反対派の弾圧</p> <p>【担当C：経済，外交】</p> <p>・社会主義(国有化)による生産業の衰退</p> <p>・貨幣価値の暴落，130,000%のハイパーインフレ</p> <p>・反米主義に対する米国の経済制裁による追い打ち</p> <p>【担当D：自然(位置，石油)，社会(人権，教育)】</p> <p>・超重質油のコスト，メンテナンス不足，生産力低下</p> <p>・人権抑圧，教育人材育成の不足</p> <p>・慢性的な生活物資不足と配給制</p> <p>・治安の悪化(国軍，警察による犯罪)，不正取引</p> <p>・南アメリカ州の人々の楽観的な国民性</p>

<p>3 全体で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>政治が民主的に行われなくなったことから、経済・社会が破綻した点を確認する。</li> <li>グループ活動で確認が不十分な個別的な知識、経済の概念について必要であれば教師が補足する。</li> </ul>
<p>4 資源が豊富でも経済が衰退する原因をまとめる。</p> <p>○新たな「問い」（切り返しの発問） 「なぜ、民主主義がくずれると、経済・社会は破綻するのだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>民主主義が崩れると経済が破綻する理由をつなぐ。</li> <li>ベネズエラを事例にして概念化・一般化するために、原因と結果の関係を再度説明する。</li> <li>民主主義が行われないと、一部の利益が優先され、多様な意見やアイデアが取り入れられなかったり、国民の側の関心も薄れたりすることで発展が阻害される点を捉える。</li> </ul>
<p>5 本時の学習課題についてまとめる。</p>

### (3) 学習評価の視点

民主主義の弱体化に伴う権力集中(政権の長期化)が経済・社会を衰退させる(民主主義が弱体化すれば、いずれ経済・社会は衰退し、回復がしにくい)ことを理解することができたか、ワークシートの記述、ジグソー学習の取り組みから評価する。

### (4) 公開授業における授業観察の視点

#### ①「科学的・社会的認識形成に関する視点」

多学問的な見方・考え方を働かせて、ベネズエラの自然・政治・経済・社会の特色を捉えることができたか。

#### ②「主体的・対話的で深い学びに関する視点」

ジグソー型の学習形態や新たな(切り返しの)問いは、地域的特色を捉えるのに効果的であったか。

## 4 学習評価について

### (1) 評価規準

<p>評価規準 (ルーブリック)</p> <p>ベネズエラが原油埋蔵量世界1位なのに生産量は小さい理由について、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i : 歴史や内政の面から理由を説明できる。</li> <li>ii : 経済の面から理由を説明できる。</li> <li>iii : 自然の面から理由を説明できる。</li> <li>iv : 社会の面から理由を説明できる。</li> </ul>
--

A	・ i ~ ivの理由を複合的・有機的に説明している。
B	・ i ~ ivの理由を複数かつ個別に説明している。 ・ i ~ ivのうち、一面だけ説明している。
C	・ i ~ ivの理由を一つも挙げるができない。 ・ 事実誤認、無回答

### (2) 学習評価の実際 (分布状況)

授業を実施した4学級(40人学級)について、評価規準に照らした分布状況を示す。なお欠席者は除いてある。

また、a~dの学級名および並び順は実際のものではなく、ランダム順で示してある。

	a組		b組		c組		d組	
A	34	85.0%	29	76.3%	28	82.4%	27	71.1%
B	6	15.0%	6	15.8%	5	14.7%	7	18.4%
C	0	0.0%	3	7.9%	1	2.9%	4	10.5%
n	40		38		34		38	

### (3) 学習評価

いずれの学級においても、7割から8割の生徒がAの評価に達している。特にa組ではCの生徒がおらず、少なくとも個別ではあるが、理由を説明できていると言える。これはジグソー学習や全体での確認などが効果的に働いていたからだと考えられる。また、a組では他の学級での授業の反省から、新たな「問い」（切り返しの発問）では「なぜ、民主主義がくずれると、経済・社会は破綻するのだろうか」の前に「資源がこれだけ豊富であるにもかかわらず」と押さえてから発問したことで、政治や経済、社会を有機的に説明する契機になったと考えられる。

一方、d組ではCの生徒が1割ほど、Bの生徒も他の学級よりも割合が高い。d組の授業では、新たな「問い」（切り返しの発問）に対する反応として、「民主主義がくずれたことで、治安が悪化した」と答える生徒が多くいた。これにより、経済が破綻した部分を飛び越えて因果関係を説明することにつながり、Aの評価に到達できなかったというのが授業者の所感である。このことから、ベネズエラを事例にして概念化・一般化するために、原因と結果の関係を再度説明する過程が不十分だと、地域的特色を捉える点も不十分になってしまうと考えられる。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

「多学問的な見方・考え方」を働かせて、ベネズエラの自然・政治・経済・社会の特色を捉えることができたかについては、学習評価からも授業の有効性を示すことができた。ベネズエラの歴史から内政を捉え、経済から社会に影響が出たという点を捉えることができ、資源が豊富であっても、民主主義が崩壊すると経済や社会が破綻するという社会システムを概念化することができた。

また、公開授業参加者との事後協議においては、生徒にあまりなじみのない国であるベネズエラを取り上げたことで、南アメリカ州の政治や経済、社会などの地域的な特色、地域に残された課題を動態地誌的に捉えることができたこと、小学校で学習した三権分立の概念を用いることができたことで、小・中の連携が果たされていたと意見をもらうことができた。

ジグソー型の学習形態や新たな(切り返しの)問いは、地域的特色を捉えるのに効果的であったかについては、公開授業参加者との事後協議において、ジグソー学習で生徒が各担当分野について話し合っていく中で、互いの分野が関連づいて納得している様子が窺え、主体的・対話的で深い学びが達成されているとの評価をいただいた。

これまで「多学問的に地理教育を行うこと(総合的な地域研究)」は理想とされつつも、扱う資料が膨大化してしまうという課題があったが、本実践事例において、一つの提案を行うことができた。

### (2) 課題

学習評価においても述べたとおり、概念化・一般化するための「切り返しの問い」が機能しないと、因果関係の説明が滞り、地域的特色を捉えることが不十分になってしまう。自然や経済の面に対する話し合いでは、学級によって深まる場面に差が生じていたので、今後も授業構成段階で考慮する必要がある。

多学問的に追究していく際、扱う資料は膨大となる。この点を解消するために今回の授業構成では、ジグソー学習を採用した。一方、ジグソー学習の場合、生徒は担当分野以外の社会認識形成に課題が残るので、授業の前

時の担当分野ごとの話し合い(エキスパート活動)に教師が適宜加わって、話し合いの視点を共有した。生徒が調べたり、教師が与えたりする資料の範囲、話し合い活動への関わりはどこまで必要なのかについては今後の検証が必要である。

## 6 参考文献

### (1) 方法論に関するもの

- ・草原和博「地理教育の公民教育化—地域を単位にした総合的な社会研究—」『社会科研究』第66号,全国社会科教育学会,2007,pp.11-20

### (2) 内容論に関するもの

※2021年はベネズエラ関係書籍が多く出版されている。

- ・北澤豊雄『混迷の国ベネズエラ潜入記』産業編集センター,2021年
- ・坂口安紀『ベネズエラ—溶解する民主主義,破綻する経済』中央公論新社,2021年
- ・坂口安紀「ラテンアメリカレポート」アジア経済研究所のジャーナルの連載,2022・2023
- ・住田育法・牛島万(編著)『混迷するベネズエラ』明石書店,2021年
- ・Condiciones de vida de los venezolanos ENCOVI 2022「ベネズエラの人々の生活と経済の状況」ベネズエラ・セントラル大学,2022年

(文責 坂田 元丈)